

2024（令和6）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---------------|-----------------------------------|----------------|------------|
| 事業所番号 | 1472800265 | 事業の開始年月日 | 平成12年4月18日 |
| | | 指定年月日 | 平成12年3月28日 |
| 法人名 | 医療法人社団 厚仁会 | | |
| 事業所名 | グループホームおおね | | |
| 所在地 | (257-0003) 神奈川県秦野市南矢名 2-12-1 | | |
| サービス種別 定員等 | ■ 認知症対応型共同生活介護 | 定員計 | 9名 |
| | | ユニット数 | 1 ユニット |
| 自己評価作成日 | 令和6年11月11日 | 評価結果 市町村受理日 | 令和7年3月25日 |

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/ |
|----------|---|

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

御利用者様のこれまでの生活習慣を尊重し、それぞれが得意としている事や行ってきたことをできるだけ続けて頂けるよう日々の生活の中に取り入れ、穏やかでいつも笑顔で暮らしていける環境を作り出せるよう職員全体で取り組んでいます。また、天気の良い時は散歩や買い物などできるだけ屋外に出るように心掛け、お花見や夏祭り、クリスマス会などのイベントや梅干しやらっきょう漬けなどそれぞれの季節を感じられたり、楽しんで頂けるような取り組みを行っています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | | | |
|-------|-------------------------------------|---------------|-----------|
| 評価機関名 | 株式会社フィールズ | | |
| 所在地 | 251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階 | | |
| 訪問調査日 | 令和6年12月19日 | 評価機関 評価決定日 | 令和7年3月17日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、小田急小田原線「東海大学前」駅の駅前デッキから見通せる、徒歩約5分のところにあります。法人経営の病院の隣の5階建てビル2階に1ユニットが入っています。上階には同一法人の通所リハビリテーションが併設されています。

<優れている点>

利用者と職員は家族の一員であり、家庭的な居場所として豊かで健やかに過ごすことをモットーに協力し合って生活しています。母の日や父の日、ひな祭りなど折々の行事では食事やプレゼントを工夫しながら祝っています。誕生会には習字の得意な人が、その人にあった文を色紙にしたためて贈り、皆で祝いをしています。利用者からは外に行きたい、美味しいものを食べたいとの希望が多く、沼津方面にドライブを兼ねて外食に行ったり、季節の花を鑑賞しに公園、梅林、花菜ガーデンなどへ行く機会も作っています。地域の近隣住民からの誘いで散歩の立ち寄りや野菜、果物の提供があり食卓に添えることもあります。事業所は医療法人が母体であり医療との連携もスムーズで、健康管理や緊急時の対応も適切に行うことが可能となっています。

<工夫点>

毎日の食事は、職員が献立を考えて、食材の選択や購入から調理までを一貫して行っています。利用者の希望を取り入れて品目や味付けを変えることも容易にできています。各自の献立で調理することから、偏りができるのを防ぐため食材・調味料、使用量、カロリーの全てを記録し、利用者の体調に配慮した提供を心がけています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

| 評価項目の領域 | 自己評価項目 | 外部評価項目 |
|------------------------------|--------|--------|
| I 理念に基づく運営 | 1～14 | 1～10 |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 15～22 | 11 |
| III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 23～35 | 12～16 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 36～55 | 17～23 |
| V アウトカム項目 | 56～68 | |

| | |
|-------|------------|
| 事業所名 | グループホームおおね |
| ユニット名 | 1ユニット |

| V アウトカム項目 | | |
|-----------|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25) | <input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="checkbox"/> 4, ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38) | <input type="checkbox"/> 1, 毎日ある <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまにある <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38) | <input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37) | <input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49) | <input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31) | <input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28) | <input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない |

| | | |
|----|--|--|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19) | <input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4, ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19) | <input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4) | <input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない |
| 66 | 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12) | <input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | <input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | <input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|---|---|---|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。 | 地位社会の中で自立とふれあいを大切に豊かに明るく健やかに暮らせることを理念に掲げている。日々の申し送りの中で話し合いを持ち、共有・実践に努めている。ダイルームや事務所に理念を掲示しており、いつでも確認できるようにしている。 | 事業所開設時からの理念と5項目の基本方針を継続し、支援に取り組んでいます。掲示や申し送りで確認して共通の認識を持ち、振り返りながら実践しています。利用者の主体性を尊重し、限りなく家庭に近い生活や生活をベースにした新たな刺激の取り入れを目指しています。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。 | 地域で行われるどんど焼きやお祭りなどの行事に参加したり、日々の散歩などの中で近所の方とのお挨拶や世間話など、地域の方々との交流を持つことができるよう支援している。 | 法人が自治会に加入し、回覧物などにより地域の情報に接することができます。自治会の行事であるどんど焼きに駐車場を提供し、地域と事業所の交流を深めています。近くの駅前商店街やおおね公民館が主催する祭りに出向いて楽しむ人もいます。 | 地域社会との交流、連携について実現していますが、今後更にボランティアの受け入れや、地域が事業所に望む情報提供などの充実・拡大が期待されます。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。 | 法人内の公園などで地域の方々との交流を通して認知症の方との接し方を理解してもらえるよう努めている。また、実習生を受け入れも行っている。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | 会議ではご利用者の近況やイベントなど日々の暮らしの中での出来事に関しての報告や、今後の対応についてのお話しをしたり、ご家族や参加者から希望や要望をき今後の運営に活かしている | 2ヶ月に1回、継続的に開催され、外部評価の緩和措置が得られています。共用場所のダイルームで行うことから利用者は誰でも参加でき、発言も可能です。会議は家族や地域住民、市役所、地域包括支援センター職員が出席し、報告や意見交換の場となっています。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。 | 運営推進会議や入居者連票を通して情報を共有しています。市役所担当者と連絡を取り合い、相談・指導を受けている。 | 秦野市高齢介護課が連絡の窓口となっており、会議録や入居者情報の提出に併せて情報交換を行っています。地域のグループホーム連絡会に出席しています。秦野市保険福祉フェスティバルに共同で参加するため、土産用のコースターを利用者と一緒で作っています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。 | 身体拘束適正化のための指針に基づいた委員会を3か月ごとに開催している。チェックシートを用いて身体拘束についての理解を深める事や周知徹底を図っている。 | 身体拘束理解の向上のため「身体拘束適正化チェックシート」を作成し、対象行為の自己点検を行っています。言葉による拘束について確認した際にはその場で注意喚起し、相互に理解を深めています。指針の作成や周知、身体拘束適正化委員会の開催など漏れのないよう実施しています。 | |
| 7 | 6 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 法人内の勉強会に参加している。不適切なケアが行われていないか申し送りなどで話し合いを持ち、虐待防止に努めている。 | 虐待防止に関する年度研修計画に沿って学んでいます。法人研修の1つとしてナーシングサポートによる「高齢者虐待における病院の役割」をテーマにした学習会に参加しています。事務所に禁句集を掲示し不適切な言葉遣いに気をつけるよう徹底しています。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。 | 利用者様のご家族からの相談は管理者が対応している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 入渠相談時より利用者及び家族からの問い合わせには管理者より説明行いご理解頂けるよう心掛けています。契約の際は契約書及び重要事項説明書等で説明し、ご理解を頂けるよう努めています。 | | |
| 10 | 7 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | ホーム内に意見箱を設置している。運営推進会議にて意見や要望を聞き対応している。また、利用者や家族の日常生活での要望や不安な点は都度職員が対応し、対応できない場合は後日管理者が対応する。 | 家族からの意見、要望は面会や電話などで聞いています。苦情処理体制を整備していますが、苦情の案件は認められていません。行事を通じた家族との交流は中断していますが、クリスマス会などの開催に際して家族と一緒に過ごせる機会として検討しています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | 8 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 毎月一回行われているカンファレンスにて管理者や代表者に職員の意見や要望を聞く機会を作り、行事や介護方針等の提案があり、運営に反映させている。また、日々の申し送りでの意見や要望は必要時管理者より代表者に報告している。 | 日頃から意見や要望を言い出しやすい雰囲気作りに努めています。定例のカンファレンスや必要に応じて面談の機会を設けています。数々のレクリエーションや行事に際しては、職員のアイデアを取り入れるなどして利用者の希望に沿った支援に繋がっています。 | |
| 12 | 9 | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。 | 資格給や能力給を設け、職員の資格取得やケアの向上に努めている。3～4日の希望休を取り入れたり、労働時間内に業務が終えるように業務内容を調整したり職員が働きやすい環境を整えるよう努めている。 | 労働時間や休暇の取り方について公平感のあるシフト編成に努めています。連休の場合も希望に沿えるよう調整しています。休憩は事務室の一部を当て、休めるよう配慮しています。ケアカンファレンスの中でも要望を受け、職場環境の改善に努めています。 | |
| 13 | 10 | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 法人内の研修に職員が参加できるようにしている。法人が契約しているeラーニングシステムにて職員各自がスキルアップできる仕組みに努めています。 | 事業所の年間研修計画に沿って研修を行っています。義務化されている研修の他にもスキルアップのための法人カリキュラムがあり、各人がeラーニングで勉強しています。医療法人の知見から得られた「医療施設における環境整備」などについて学び業務に反映しています。 | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。 | 市内のグループホームとの連絡体制を作り、情報共有できるようにしている。秦野市で行われている福祉フェスティバルに参加し、市内の他のグループホームの職員との交流する機会を作っている。 | | |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。 | 入居前に施設内の見学や管理者との面談を行い、疑問や不安、要望等聞く機会を設けている必要に応じてお茶や食事など体験入所を勧め、ホームの雰囲気を知って頂く機会を作っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。 | ご家族が不安に思っていること、困っていることを十分に聞き、サービスに反映できるよう話し合いを通して信頼関係作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | ご家族と利用者本人の思い、状況を確認し、できることは実行し、時間のかかることは話し合いながら支援の調整を進める努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。 | 本人の体調や行動を考慮し、毎日の家事の仕事、料理の手伝いや洗濯物を干したり畳んだり、レクリエーションなど、生活を共にする事で信頼関係を築くよう努めている。人生の先輩であるという考えを常に持ち、教えてもらう場面を多く持つようにしている。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。 | 来訪時などご本人の生活の中での様子をお伝えしたり、ホーム内の季刊誌にて普段の生活の様子をご家族の方と思いを共有できるよう努めている。 | | |
| 20 | 11 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | 家族や希望者には事業所の季刊誌を送付したり、年賀状を贈ったりしている。また、居室に電話を設置しておりいつでも連絡が取れるようにしている。 | 知人・友人の来所に際しては居室に案内し湯茶の提供などを行い、ゆっくり話が出来るよう配慮しています。年賀状の返信なども援助しています。身の回り品や嗜好品を希望する人には近くのスーパーマーケットやドラッグストアに同行して買い物の支援をしています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。 | 家事やレクリエーションなどを通して利用者同士良好な関係を築けるように心掛けている。お互いの関係性や希望をふまえ、会話や交流が行いやすいように席の配置を考えたりしている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。 | 家族や関係者などから契約が終了した後の本人や家族について相談があった時は、必要に応じて話し合いの機会を持つように努めている。 | | |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 12 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 本人がやりたいこと、してほしいことをその都度聞きながら職員間で話し合い、実現できるよう努めている。意思の疎通が困難な方にはご家族からの意見やご本人の言葉や表情などを観察し、意向をくみ取れるよう職員間で検討し、支援するよう努めている。 | 食事に関する希望は夕食のメニューにすぐに取り入れています。イライラして落ち着かない状態の時は、好きな音楽や落語を聞いてもらい、笑顔が見えた時に話を聞いています。旧姓で声かけすると話が通じるなど、家族からの情報も得て意向の把握に努めています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | 入居時にはご家族やご本人からこれまでの生活歴などをお聞きし、職員間で情報を共有している。また、ご家族の面会やご本人との日々の会話の中から生活過程の把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。 | 個人記録表にてバイタルや食事摂取量・1日の過ごし方やご本人の様子など記録し、職員間の情報の共有や現状の把握に努めている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | 13 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。 | ご本人やご家族とこれからの暮らしの希望・要望、ご本人の課題などを話し合い、介護計画に反映している。必要に応じて医師や看護師の意見を取り入れている。 | 利用者の様子は変化しているため、生活する上での課題やケアについて毎月のケアカンファレンスで意見を出し合っています。今の暮らしが維持できているかモニタリングを行い、自分で出来る事や職員が手伝えることで生活が続けられることを目標にケアプランを作成しています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 個人記録表に食事・水分摂取状況、体重・血圧、与薬状況、日々の状態等を記入し、職員間の情報共有や介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。 | PTやデイケア、管理栄養士など法人内のスタッフを利用してサービスに対する助言を得たり、幅広い支援をできるように努めている。また、利用者の個別の要望にこたえられるよう対応している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。 | 近辺への散歩の折、近所の方々と気軽に挨拶したり、近所の美容院に定期的に訪問をお願いし、地域の方々との交流を図っている。 | | |
| 30 | 14 | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | 毎月一回の主治医による内科健診がある。また、法人内の精神科、鹿往診に対応している。必要時、他科受診を行えるようご家族の協力を得ながら支援している。 | 事業所の協力医を主治医として月1回の訪問診療を受けています。希望により法人内の精神科、認知症専門医に受診しています。急な発熱や体調不良は看護職員に相談して病院受診に繋げ、安心して生活を送れるよう支援しています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。 | 毎朝検温行い体調や生活の中での変化や気付きがある時は法人内の看護師や医師に相談する事ができ、受診につなげることができる。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者が入院した場合は施設での情報は管理者が必要な情報を病院に提供する。入院後は家族と共に病院関係者と情報交換をしながら本人の現状を把握し、早期の退院に向けて対応できるよう努めている。 | | |
| 33 | 15 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。 | 現在、事業所では見取りは行っていないことや、重度化した際の対応についてや退去の時期の目安など、入居契約時より説明を行っている。重度化した際、医師や管理者からご家族に説明を行い、ご本人の状況に合う環境を提案している。 | 利用者の状態が重度化すると、飲み込む力が低下して口からの食事が摂れなくなります。事業所での看取りは行っていないので、様子を確認しながら家族と相談し、他施設や病院への申し込みを提案するなど事業所で可能な限りの支援をしています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。 | 緊急時のマニュアルがあり、事業所内に掲示し、職員間で周知している。法人内での勉強会に参加している。 | | |
| 35 | 16 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 | 法人内で年二回の避難訓練と消防訓練を行い、避難経路の確認や災害時の対応を行っている。現状では災害時は法人内の施設を使用することで対応することとしている。 | 2階にあるグループホームの避難経路は階段を上がり3階から外に出ます。地震の時は窓から離れガラスの飛散のない場所に避難します。備蓄品は共有での管理の他に、個人用災害非常袋に3日分の非常食と水を居室で保管しています。貯水タンクの設備と風呂に水を溜め、災害に備えています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 17 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。 | お手伝いが必要な場面ではご本人の気持ちを聞き、必要な対応を行うよう心掛けている。排泄や入浴など恥ずかしいと感じやすい場面では周りの方に気付かれぬような言葉かけなど配慮するようにしている。 | トイレ拒否の利用者には「部屋に行きましょう」「ズボンが汚れているので着替えましょう」と違う言葉で声かけして、利用者が不快な気持ちにならないようにしています。フロアで申し送りをする時は、誰の事を話しているのか特定されないよう部屋番号を使い、プライバシーに配慮しています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。 | 日々の会話や行動の中からご利用者が自分の意思や希望を実現しやすいような環境を作り出すようにしたり言葉かけを心掛けている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。 | 会話の中からご利用者の要望・希望をとらえ、できるだけお手伝いできるような努めている。また、自分の意思を言葉に出す事が難しい方でも表情や態度などからご本人の意思に添うことができるよう心掛けている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。 | 季節に合った服装や洋服・下着などその時々合ったものを用意しご利用者に選択していただいている。散髪や家族に付き添いをお願いしているが定期的に近所の美容師に来所してもらい、散髪を行っている。 | | |
| 40 | 18 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 食事の献立や好みなどご利用者と相談し、調理の下準備や盛り付け、片付けなど職員と一緒にしている。季節や色どりを感じられるようなメニューを加えたり、誕生日や祝日などには行事食を作りお祝いをしている。 | 食材は近所のスーパーマーケットで購入し、職員が調理しています。ベランダで育てた夏野菜、近隣の住民から届いた季節の野菜や果物が食卓に並びます。皆で白菜の漬物、梅干し、ラッキョウなどを作って味わい楽しめるようにしています。バランスの良い食事が摂れるよう毎食時にカロリー計算をしています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | 毎食ごとに食事・水分摂取量、カロリー計算の記録を行っている。個々の好みや飲み込み具合を考え食事の形態や調理法を考えたり、補食や水分を提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。 | 食後の歯磨きの声掛けやお手伝いを行っている。義歯は夕食後洗浄剤にて洗浄、歯ブラシは昼食後熱湯消毒し日光乾燥を行っている。 | | |
| 43 | 19 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。 | ご利用者の個々の動きや行動の観察、排泄の時間や回数をお手伝いが必要な方は個人記録表に記録し、トイレへの誘導や介助を行い、トイレでの排泄が行えるよう支援している。 | 自立度の高い利用者の排泄は自己管理になり、トイレから出た時に記録しています。突然立ち上がったたり、廊下を行ったり来たりするトイレサインを受け止め、誘導することで、トイレでの排泄を支援し、失禁の回数が減るよう努めています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。 | 体操や廊下歩行、散歩などで体を動かすよう心掛けている。食事は野菜や水分を多く摂るようにしている。各自排泄量を記録し必要に応じて便秘薬を服用している。 | | |
| 45 | 20 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。 | 毎日、体操や廊下歩行、散歩などで体を動かすよう心掛けて売る。食事は野菜・水分等を多く摂るようにしている。各自排泄量を記録し、必要に応じて便秘薬を服用している。 | 入浴時は浴室と脱衣所に職員が一人ずつ見守りをするので安全に入浴できるよう配慮しています。浴槽が大きいので仲の良い利用者同志で入ることもあります。自立度が高く一人で入りたい人は、さりげなく声かけしながらゆっくり入浴を楽しめるよう支援しています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。 | 入浴や曜日は決まっているが、希望する時間や順番をお聞きながら対応している。自立されている利用者の入浴では職員は立ちすぎずマイペースで入浴できるよう努めている。介助が必要なご利用者は浴室内のプライバシーを守りつつ洗身・洗髪等のお手伝いをしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 処方薬リストにてご利用者ごとの服薬状況を把握している。処方薬の変更の際は受診ノートや申し送りを通して各自周知するよう努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。 | 台所の手伝いやお花の手入れなど今までの生活の中で行ってきたことや得意とすることを活かして、それらを続けていけることで張り合いや喜びを感じる日々を過ごしていけるよう努めている。 | | |
| 49 | 21 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。 | 感染防止の対応の上、季節を感じられるよう外出を計画したり散歩に出かけたりしている。ご家族の協力を得て外出やお墓参りなどお願いしている。 | 家庭に近い生活が送れるよう散歩・買い物・ドライブなどの外出支援をしています。きれいな花を見たら居室に飾りたいと気持ちが前向きになり、新たな刺激になるよう声かけしています。家族の協力を得て公園で合流して散歩をしたり、出かけたりしています。利用者のリクエストに応え、沼津まで遠出のドライブに出かけることもあります。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | お金は施設で預かっているが、個々に買い物ができるようにしている。普段の生活の会話の中から希望や要望を聞き出し、個別に近所のお店などに買い物に行ったりしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 各居室に電話を設置しており、いつでも使用できるようにしており、自ら電話できない方には職員がお手伝いをしている。家族や友人からの手紙を取り次いだり年賀状など書ける方には書いて頂くようお手伝いしている。 | | |
| 52 | 22 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 食堂や廊下には季節の花を飾ったり、外出時や日ごろの写真、作品を掲示し皆で見えたり楽しんだり、ご家族の来所時に日常の様子分かるようにしている。廊下や通路は車椅子でも通れるように整えている。暖色系の照明を使用し、室温調整を行い心地よく過ごして頂けるよう努めている。 | リビングは広く、台所では利用者がエプロンをかけて調理の準備や洗い物を一緒にしています。調理の匂いから、食べたい物の会話が始まったりします。音に敏感な人もいるので、大きな音を立てないよう気を付けています。懐かしい唱歌を流し、口ずさむ人など、一人ひとりが自由に過ごす場所になるよう支援しています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | 食堂や玄関前にソファを置き、一人の時間を過ごしたり、ご利用者同士やご家族、知人の方と過ごしたり、それぞれが自由に利用できるような場所を提供している。 | | |
| 54 | 23 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 居室にはご本人が長年利用されていた家具や寝具などを持ち込んで頂いたり、テーブルや壁には誕生祝いの色紙や塗り絵などが飾られていて穏やかに過ごせるように心掛けている。 | 居室は備え付けのクローゼット、トイレ、洗面台、電話があり夫婦で暮らす部屋もあります。自宅から使い慣れた冷蔵庫やトースターを持ち込み自由に使う利用者もいます。1日のスケジュールを壁に張り、一人になりたい時は居室で読書やぬり絵など自由に過ごす部屋になるよう支援しています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | 建物内はバリアフリーで各居室にトイレ、流し台、空調設置し、廊下に手すりが取り付けられている。トイレや居室に分かりやすいように目印をつけたり、日課表を貼りご自身で判断ができるようにしている。 | | |

2024年度

事業所名 グループホームおおね
作成日： 2025年 3月 22日

| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
|------|------|-------------------------------------|---------------------------------------|--|------------|
| 1 | 2 | ・コロナ禍以降、地域との交流やボランティア活動などが少なくなっていた。 | ・地域社会との交流を増やしていく。 ・ボランティアの受け入れを行う。 | ・地域の行事に参加していく。 ・コロナ禍前に来所していたボランティアの方に声をかける。 | 1 2ヶ月 |
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |